

主題「インターネットって安全かな？」

副題～ラインや SNS などの誹謗中傷やなりすまし～

さいたま市立原山小学校

1 ねらい

インターネットには便利な面と危険な面があることを知り、安全な使い方を児童自らが考え体験することで、楽しさとともに、使い方を間違えると相手を傷つけることを理解できるようにする。

体験では、ラインや SNS などに似た、チャット機能を使って情報交換を行うことで、基本的な操作を理解するとともに、情報交換する相手を不快にさせないようなやりとりや相手のことを考えた使い方を学ぶことができるようにする。

2 指導計画

- (1) インターネット利用経験の話し合い。
- (2) チャットの体験 (LINE や SNS の利用につながる)

チャット体験ソフト (ジャストスマイル)

- (3) チャットやインターネットの使い方についての話し合い
- (4) 感想記入



3 授業実践

- (1) 本時のめあてとチャットの使い方を知る。
 - 1- めあて「インターネットの楽しい使い方を知ろう！」
 - 2- チャット利用方法の確認を行う。
- (2) 実際にチャットの体験を行う。
 - 1- 書き込みの内容は自由で行わせる。
 - 2- 児童の席を回って、使い方のアドバイスをしていく。
 - 3- 荒らし機能 (言い争い) を使って、相手を不快にさせないようなやりとりを考える。
 - 4- 教師が、匿名で個人情報を漏らした書き込みをする。
- (3) 実際に書き込んだ内容を見ながら感想を出し合う。
 - 1- 「不快に思う書き込みを見たときにどう感じたか」「危険な書き込みはなかったか」という点を中心に話し合いができるようにしていく。
 - 2- 個人情報を流出することの危険性に気付かせる。
 - 3- 顔が見えないからこそ過剰な書き込みをしまいがちになる、等の危険性に気付かせる。
- (4) 今日の授業の感想を書く。
 - 1- チャットを体験してみて、ネットの利便性を学んでの感想を書かせる。



4 成果と今後の課題

実際に体験することで、児童はチャットというネット上の会話の中にあるトラブルや危険性が分かった。今回の学習を行い、「これからは、顔は見えないけど相手の気持ちをよく考えて書き込みたい。」「インターネットは何でもできるが、画面の裏側には何があるか分からないので、ルールを守って楽しく使いたい。」といった感想もあった。相手の気持ちを考えて利用することの大切さやネットの利便性の裏にある危険に気づけたことは、成果であったと思う。しかし、情報を利用するときの著作権の問題などの理解も深めていく必要があるため、今後の課題にしたい。